

輝く

自然と人情がある  
陶芸の里を  
つくりたい

なりあき  
山田也 有さん  
(河浦町新合・62歳)

※坂本昭彦さん(55歳)  
右後方



河浦町新合に、農具倉庫を改装した陶芸教室「河浦焼 天草陶楽庵」がある。ここに集まりひな人形の置き物に絵付けをする参加者に穏やかな笑顔で教える山田さん。「新合陶芸倶楽部」の代表を務める。参加者からは、「優しく、分かりやすく教えてくれる」と好評。

長崎の現川焼土龍窯で修業をして、長崎で20年、東京で10年間陶芸教室をやっていた。4年前に天草に移住し、郵便配達をしながら天草での人脈を広げた。そのなかで、趣味の陶芸で地元貢献したいと思いをもち坂本昭彦さんと知り合い、2人で昨年12月に陶芸教室を始めた。

山田さんは、磁器材料日本一の「天草陶石」があるこの地で陶芸をするため天草に移住した。天草陶石は陶器の白化粧に使っているという。材料はすべて地元産を使いたい。今は焼き物に使う土を購入しているが、良い陶石が採れるところは良い粘土があるはずと、河浦で土を探している。

陶芸教室を始めて間もないころから、焼き物や正月飾りに使う材料をいただくなど近所の皆さんには大変お世話になっている。近所のおじいちゃんから、「人が集まる場所をつくってくれてうれしか」と言葉をもらったときには、受け入れられたことが実感できてもうれしかったという。

「豊かな自然と人情があるこの地で陶芸を広めて、窯の煙がいくつも立ち昇るような陶芸の里にしたい」と山田さんの夢は膨らむ。

【問い合わせ先】陶芸教室 天草陶楽庵 ☎0777 陶芸体験も実施しています

天草市チームは男子6位、女子4位  
郡市対抗熊日駅伝



▲天草市役所前をスタートする男子

第34回熊日郡市対抗女子駅伝が1月22日、第43回郡市対抗熊日駅伝が2月12日に行われました。各郡市を代表してそれぞれ19チームが出場。女子はびぶれす熊日会館前をスタート・フィニッシュとする7区間28.4km、男子は天草市役所前をスタートし、同会館までの14区間106.5kmで競われました。天草市チームは女子が4位、男子が6位。選手たちは沿道からの声援を受けながら全力を尽くして走っていました。

春のおとずれを感じて  
第6回鬼池ひなの会



▲さげもんを手にする女の子

2月11日から3月5日まで、五和町鬼池地区のコミュニティセンターや寺などの各所にひな段飾りやつるしびななどを展示する「鬼池ひなの会」が開催されています。鬼池ひなの会実行委員会が冬場を心温かく過ごすために地元住民からひな人形を借りるなどして、毎年開催しているもの。12日には、つるしびなを作る「さげもん作り教室」が行われ、参加した女の子は、「いいのができたよ」とよろこんでいました。

火事から守れ！大切な資産  
崎津教会火災想定訓練



▲消防隊員による放水訓練の様子

1月22日、天草広域連合南消防署が河浦町の崎津教会で初めての火災想定訓練を行いました。住民の防火・防災意識を高め、防火・防災対策面からも世界遺産登録をあと押ししていくために実施したもの。同署の消防隊員や地元消防団・住民ら約70人が参加し、放水訓練や水消火器を使った訓練が行われました。参加した住民は、「訓練でしたが緊張した。日ごろから火災を出さないように注意したい」と話していました。

ふるさとの味を忘れないで  
高校3年生を郷土料理で送る会



▲巻きずしを作る高校生

2月4日、栖本福祉会館で「高校3年生を郷土料理で送る会」が開かれました。社会福祉協議会栖本支所が主催し、今年で33回目。地元食生活改善推進員協議会の指導で、高校生9人が「がね揚げ」と「巻きずし」作りを体験。地元老人クラブもカシの実こんにゃくなどの郷土料理を持ち寄り、みんなで楽しく交流しました。参加した高校生は「とてもおいしかった。天草を離れてもふるさとの味を思い出してがんばります」と話していました。